

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月18日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室  
開催にあたり、委員による授業参観を実施
- 4 参加者

会長	須栗 大	中京学院大学教授 連携推進部長	
副会長	鎌田 則之	やさか観光協会会長	
委員	半沢 岳彦	坂下まちづくり協議会理事	
	村田 純一	坂下公民館長	
	久野 智治	坂下中学校長	
	丹羽 達也	坂下小学校長	
	秋山 小枝	本校同窓会長	
	長瀬 愛	中津川市社会福祉協議会地域福祉課	
	伊藤あずさ	地域住民 (欠席)	
	古田小百合	本校保護者代表 (欠席)	
	オブザーバー	森 益基	岐阜県議会議員 (欠席)
		成瀬 博明	中津川商工会議所専務理事 (欠席)
岩久 義和		中津川市教育長	
深津 広樹		中津川市定住推進部長 (欠席)	
廣瀬 竜也		坂下総合事務所長	
学校側	田並 千穂	校長	
	足立 幸司	教頭	
	斎藤 良成	事務長	
	板津 裕也	教務主任	
	勝川 誠	生徒指導部長	
	酒井 雅代	進路指導部長	
	岡本 拓郎	地域探究科主任	
	林 尚志	地域連携コーディネーター	

## 5 会議の概要（協議事項）

### （1）学校評価アンケート結果、進路決定状況、地域探究科、地域探究科について

【学校長、各担当による説明】

意見1：アンケートの「わからない」の欄をなくしたほうが良い。考えさせるために書かせる形でも良い。

⇒学校評価アンケートについては県の様式に従って行っている。必要なときには記述式でのアンケートを考えていく。

意見2：アンケートの数値だけでなく、それぞれの生徒の状況を掴んで対応していく必要がある。

意見3：地元就職してくれるのは有り難い。運送業や製造業についても人不足であり若い人を大切にしないといけない。

意見4：デュアルシステムで体験した結果が就職に結びついているか。

⇒企業や自分の特性を理解し就職に繋がった例はある。また体験した本人が直接就職したわけではないが、体験した他の生徒から情報を得てその企業に興味を持った生徒がいる。

意見5：多くのイベントに協力して参加し、いろいろな経験ができています。ハンドマッサージ時の会話なども素晴らしく、外部へ積極的に参加している成果である。本校は魅力溢れる学校であると外部からも言われている。

### （2）スクールミッション策定について

### （3）学校運営全般に関する意見交換について

意見1：本校で行われている公民館主催の福祉体験では他地区の小中学校からも参加があり、保護者も一緒に参加するようになってきた。福祉科は募集で苦しんでいるが無くしてはいけない学科である。

意見2：生徒が地元の小中学校に直接出向き、小学生にマルシェの宣伝をしても良い。小学生が興味を持ち親に連れて行ってほしいと言え、参加してもらえることも増えるのではないかと。

### （4）オブザーバーから

意見1：以前と比べ授業に向かう生徒の姿勢が良い。ハンドマッサージでは1対1での会話が素晴らしく、その際の先輩から後輩へのつながりも見られた。またマルシェの実行委員と数回会っているが、その都度成長をしている。本校は小さい学校ではあるが、そのスケールメリットを最大限活かして教育をしている。

意見2：地域探究科は時代に合った学科である。引き続き頑張ってもらいたい。福祉科の生徒もコミュニケーション能力がしっかりとついている。

## 6 会議のまとめ

- (1) 授業参観により、生徒自ら主体的に活動している姿勢が評価された。福祉科に限らず地域探究科についても地域と連携しての教育活動等が活発であり、その教育活動が認められている。
- (2) ボランティア活動を含め地域との連携を密にし、それらの活動を通して生徒の成長に繋がっていくとともに、生徒が活躍している場면을地域の方々や中学生に知ってもらい、本校の魅力を効果的に発信していきたい。